

## 令和2年度 愛知県生涯学習審議会会議録

### 1 開催期日

令和3年3月19日（金）午前9時30分から午前11時まで

### 2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

### 3 出席した委員の氏名 16名

池田紀代美、氏家達夫、大島伸一、大村恵、河野ともえ、後藤澄江、是住久美子、志村貴子、成瀬幸雄、林寛子、林泰弘、牧野秀泰、ますだ裕二、三輪宮子、山内晴雄、吉田真人

### 4 欠席した委員の氏名 3名

大石益美、加藤まゆみ、久保田力

### 5 会議に付した事項

#### 議 題

- (1) 第2期愛知県生涯学習推進計画における個別目標の達成状況について
- (2) 2021年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について
- (3) その他

### 6 会議の経過

- 会長・副会長の選出  
委員の互選により、大島委員を会長に、大村委員を副会長に選出
- 会議録署名人の指名  
会長から池田委員と林泰弘委員を署名人に指名
- 第2期愛知県生涯学習推進計画における個別目標の達成状況について  
事務局から説明、質疑応答は別紙のとおり
- 2021年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について  
事務局から説明、質疑応答は別紙のとおり
- その他  
別紙のとおり

【第2期愛知県生涯学習推進計画における個別目標の達成状況について（資料1）】

- 達成状況が未達成の目標が多く残念。一番残念だと思ったのは1（1）「公立小、中、高等学校におけるスクールソーシャルワーカー（SSW）及びスクールカウンセラー（SC）の配置人数」の減少である。大島会長の挨拶で心の問題が深刻化しているとの指摘があったがその通りである。こうした問題に対応するために、SSWがますます重要になる。引き続き努めていくべき課題に「一層の充実を図るため、国からの財政支援が拡充されるよう、働きかけを継続していく必要がある」とあるが、国からの財政支援がないとやれないというニュアンスに受け取れる。非常に切実に必要なのだから他事業の予算を削ってでもこの目標を達成していくよう考えていくことが重要である。今の子供たちの状況の深刻さを考えて、一番大切なところに手を差し伸べる本気度が問われる部分であり、また数字が反映される部分だと思うので、優先的にできることから本気で取り組む必要がある。

→事務局：SCについては、実際の人数は減少しているが、相談時間数は変わっていない。議題（2）でも、SCについて触れさせていただく。

- SSW配置に係る県の費用負担は、3分の1補助とのことでよいか。

→事務局：3分の2が県、3分の1が国の補助負担である。

- SSWは中学校区に1人配置を目指していくとのことでよいか。

→事務局：そのように目指しているが、なかなか進んでいない。

- 過去の経験から話すとSSWやSCは学校現場では1対1の対応が非常に重要であり、1人1人のケアをどうするかについて、学校の先生たちとの連絡が必要である。少しでも人数が多くなり、教員と同様に職員として活躍できる体制ができると良いと思う。人数は学校数から考えるととても少ない。心の問題にどこまで入り込めるかが重要である。また、1（1）「自分にはよいところがあるとおもいますか」の問いに対して肯定的に回答する児童生徒の割合が低下しているについて。コロナ禍で多大な予算をかけてタブレットを導入し、オンライン化が進んでいる。人と人が触れ合って実体験を持って学ぶことが重要だが、オンライン化によってついていけない子供が出てこないか、またオンライン化に伴う心の変化について我々が見ていく必要があると思う。
- SSW及びSCの必要数を把握することは難しいと思うが、事務局でつかんでいる実

態や試みなどはあるか。

→事務局：実態把握はできていない。

- 他県の事例など詳しい方がいれば教えていただきたい。
- （過去の学校現場での経験や現在の活動から）不登校の生徒数が増加している。そのため、SSWを増やす数値目標を掲げて取り組んでいるが、欠けているのは、その生徒の個々の家庭の実情を把握することである。これは、個人情報問題によりとても難しくなっており、学校の教員もその背景に入りにくい傾向が出てきている。それで不登校の生徒向けの学校もつくっている。そういった生徒がどのような暮らしをしているか把握することなど、公的機関ができない活動を NPO がサポートする必要がある。多数いる不登校の生徒を少しでも救っていきたいと思いながらこうした活動をしている。
- 現場では実態を必ず把握しているはずなので、意見交換等により実態をつかんでいく必要がある。

【2021年度愛知県生涯学習推進計画事業（案）について（資料2、資料3）】

- 連合愛知では教育にも力を入れている。不登校の問題に加え、深刻なのは外国人の問題である。愛知県では日本語教育が必要な児童生徒が全国でも群を抜いて多い。義務教育を終了した人への支援は未来塾等充実しているが、学校現場から、なかなか支援ができていないという声も多く挙がっている。義務教育段階で充実した日本語指導ができることによって、さらに未来塾の活性化につながると考えているので、教育委員会全体で考えてもらってその充実を図ってほしい。

→事務局：こちらでもその点が今後の課題であると考えている。若者・外国人未来応援事業では地域協議会を各地域で設置しており、様々な支援機関と年1～2回協議する場を設けている。その場で情報交換や県の事業の紹介などを行っており、今後も協働して、内容の充実を図っていきたい。

- 外国人の問題は表に数値として出てこない。まずは、数で提示することが必要だと思う。
- コロナウイルスについて1年過ぎたが、今後1、2年若しくはそれ以上続くという専門家の意見もある。多世代に渡ってコロナとどう向き合うか、またコロナ後の地域内の関係、地域と行政との関係など人の関係をどうつくっていくかについて、展望を持って見通していかないといけない。例えば、今後国民的にワクチン接種を行う話があるが、接種にあたっては予診票を書く必要がある。南生協病院では、現在予診票を書く練習を200人くらいにやってもらい、それに伴う疑問を聞いているが、実に様々な意見をもらっている。このままワクチン接種を実施すると大混乱に陥ると予想されるため、今回もらった意見を整理して自治体に提出しようと思っている。生涯教育を多世代で取り組んでいくにあたり2021年度の主な事業①～⑤を推進していく前提として、コロナ対応の具体的な中身を提示して、地域の人と共に乗り切っていく必要がある。ただワクチンを接種しろと上から言うのではなく、これをチャンスと捉え、例えば予診票も疑問を一つ一つ聞き取りをするなど、どんな場合でも人との関係を上手につくっていくことを前面に出してほしい。国民が力を合わせるとはどういうことなのか、その結果どういう地域をつくっていけるのかということをもっと色々と発信してほしいし知恵を出してほしい。
- 南生協病院は第1波のときにノウハウのない中、組織が一致して見事に抑えきった。現在コロナに対するノウハウがわかってきているが、これを地域で共有していくプロセスが欠けている。やはり全体を統括する立場のところはそういった経験を徹底的に

利用することが必要であると思う。

## 【その他】

- 次回以降の審議会では、次期愛知県生涯学習推進計画について審議していただくことになる。次期計画に盛り込む視点や施策の方向について御意見・御提案等があれば伺いたい。
- 最初の達成状況は昨年度の評価で、子供の自己肯定感の問題は平成30年度から下がっているとのことだが、おそらく今年度はさらに下がったと考えられる。今後次期計画の検討に入るが、どういうことに力を入れていかないといけないか、次回以降詰めた議論をしていただきたいと思う。子供の問題で言うと、愛知県は子ども調査で貧困問題を深く調査しているので、貧困問題と自己肯定感がどう関わっているのか市町村単位で数値がわかれば、エビデンスとして今後の計画策定に生かせるのではないかと思う。SSW・SCの配置状況と数値、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の進展状況と数値などを突き合わせて考え、計画策定に生かせればと思う。
- それでは、次期計画策定に関して委員の方から御意見等出してほしい。
- 子育てネットワーカーとしてこれまで保護者に対して家庭教育に関する講座を実施してきた。コロナにより、学齢期に入る前の子供やその保護者が外に出てこられない現状がある。現在リモートで支援活動を行っているが難しい。そうした世代への支援も視点に入れてほしい。
- 「社会教育士」の称号が新設され、社会教育施設にとどまらず、多様な人との連携や協働によって、まちづくりや地域づくりに携わる役割が期待されている。社会教育士が活躍できる支援があれば良いと思う。また、教員の多忙化解消のため、県内で部活動廃止の動きが進んでいる。これからは地域や民間が受け皿となって、生涯学習の枠組みの中で支援していくことが必要になってくる。そのような事業も盛り込むと良いのではないかと思う。
- 今日はSSWについて様々な視点から意見が出た。SSWの待遇や配置、学校との連携のあり方など、様々な視点があると思う。例えば、私は前回の「愛知子ども調査」に関わったが、その調査結果を基に作成したロードマップに従い、SSWが増えているという話もあった。このようなものを作って、それに則り対策を進めていくということが重要であると思う。子ども調査は2016年に実施しているので、できればそろそろ次回の調査の必要性を教育委員会のほうからも挙げてもらえると良いと思う。SSWの関心の高さに驚いているが、(勤務している大学の)大学院に全国のSSWが来てお

り、それを見ていると都道府県ごとに取組に違いがあることを感じている。県全体に配置しているところやマニュアルを作成しているところなどある。愛知県も取り組んでいるとは思いますが、そういったことも参照しながら進めていくとよいと思う。

2点目として、地域包括ケア、地域共生社会が言われるようになった。一例としてSSWを挙げると、子供や家庭に関わる場所まではできていると思うが、地域に関わる場所まではできないと思う。SSWも地域と関わり子供たちを守るというところまでやっていければ良いと思う。地域包括ケア、地域共生社会の中での生涯教育のあり方をぜひ議論していただきたい。

- 家庭の一主婦として、いじめや虐待への踏み込んだ対策ができないかを感じている。
  
- NPO 法人を 14 年やっている。子供たちが安心でき、自己肯定感を持てるような居場所づくりを支援してほしい。学校からは地域の姿がなかなか見られない。地域で NPO が活動しているが、私たちも居場所づくりとして地域の方皆で子供を守るという体制をもっている。それにより、地域の高齢者も自分の居場所や生きがいがあればそれなりの生活ができ、また子供たちも見守られているというものがあれば、自分はここにいていいのだという自己肯定感に繋がる。従って、こうした地域の居場所づくりの援助をしていただきたい。